

平成 26 年度 史跡・建築部会（合同開催）議事録（要旨）

1. 日 時 第 1 回 平成 26 年 9 月 1 日（月）
第 2 回 平成 26 年 12 月 1 日（月）
第 3 回 平成 27 年 2 月 10 日（月）
2. 委 員 田中部会長、今村委員、山尾委員、北野委員、渡辺委員、伊東（龍）委員
（オブザーバー）平井委員長、熊本県文化課

3. 審議事項

- 「石垣と重要文化財建造物等について」
「総括報告書（整備事業編）について」

4. 主な意見

(1) 石垣と重要文化財建造物等について

- ・ 修理工事の写真や以前撮影した写真を収集し、同じところからもう一度写真を撮って比較すると良い。
- ・ 孕んでいる箇所については、月 1、2 回計測して 1 年間の中でどのようなサイクルで動いているかも含め長期的（3 年～5 年）に変位を確認しなければわからない。
- ・ 石垣の計測については、計測方法もいくつかあるので、場所毎に適切な方法を検討してみることに。
- ・ 変位測定方法については石垣整備の手引きを参考に検討すること。
- ・ 平櫓周辺の水系を含む環境が悪い。樹木による日当たりの問題等周辺環境も一緒に検討する必要がある。

(2) 総括報告書（整備事業編）について

- ・ 昭和 30 年代の重文の修理記録も整理してもらい、その成果についてもまとめてもらいたい。
- ・ 復元整備の整備対象年代を幕末期とすることは問題ないが、過去のすべてを矛盾なく説明できるように整理してほしい。
- ・ 熊本城内にある石碑については、築城以前、築城以後、西南戦争など様々であるが、歴史的経緯をどのように考えるか今後整理していく必要がある。
- ・ 熊本城内の防護柵など現在統一されてきているものも適切か報告書作成、計画改訂の中で検証する必要がある。
- ・ これまでの塀の築造方法が本質的価値である遺構を壊していないか、元々の築造方法が構造的にもつのかの検証が必要。在来材料・在来工法で出来ない場合破その理由を明確にしてどのような補強・施工したか記載してほしい。

5. 総括

青文字：その後の対応

(1) 石垣と重要文化財建造物等について

- ① 今回の現地指導箇所のみならず二の丸、三の丸含め、必要箇所については変位調査を実施する必要がある。石垣全体の変位を三次元的にレーザー測量する方法から孕んでいる部分のみを簡易計測する方法まで様々な計測方法があるので検討するように。

⇒ 2 点間による変位計測と傾斜角、3 次元測量を平成 27 年度より実施

- ② 今後も石垣や重要文化財建造物の修理記録をしっかりと集めるように。
⇒ 資料収集及び調査研究の継続実施（石垣カルテ等に反映）
- ③ 石垣カルテについて具体的なスケジュールを作成すること。
⇒ 平成 27 年度史跡部会に提示
- ④ （平櫓の破損状況に関して）保存修理については、周辺環境をしっかりと調査して行うことが重要である。
⇒ 排水遺構確認調査及び周辺含めた整備の検討

(2) 総括報告書（整備事業編）について

- ① 特別史跡熊本城跡保存管理計画改訂と石垣カルテ作成以前に総括報告書（整備事業編）をまとめることとなるので、これまでの事業成果をまとめる報告書として今後の展望についてはあまり踏み込まないよう留意すること。
⇒ 指導内容を踏まえた総括報告書、保存管理計画の策定
- ② 今後も継続して資料収集に努めること。
⇒ 資料収集及び調査研究の継続実施（他機関へも協力依頼）
- ③ 整備報告書で問われていることは遺構を壊していないかと在来工法で可能か可能でないならその理由を明確に記載すること。
⇒ 総括報告書に反映（平成 27 年度刊行）